



第22回日本消化器癌発生学会総会準備報告

まず、本年3月11日に起こった未曾有の東日本大震災と津波被害の犠牲者の方々に哀悼の意を表するとともに、被災地域の会員の皆様にお見舞いを申し上げます。また、一日も早い東日本の復興と福島第一原発事故の復旧を心よりお祈り致します。

さて、このたび第22回日本消化器癌発生学会総会を平成23年11月25日(金)、26日(土)の2日間にわたり、佐賀市のホテルニューオータニ佐賀において開催させて頂くこととなり、関係者一同鋭意準備を進めているところでございます。

がんと闘い、撲滅するためには「がん」を知ることが必要ですが、研究が進んだとはいえ、がんは我が国の死亡原因の第一位であり、まだまだ、残念ながら解っていないことが多い状況と言わざるをえません。そのがんの過半数を占める消化器癌の発生から進展までを基礎と臨床の研究者が一堂に会し、研究成果を討議するこの学会は、臨床側からはその研究のモチベーションとなる背景を伝え、基礎側からはより深い洞察とそれに至る合理的な方法論を伝授するという補完的な関係での存在意義を發揮してきた学会であろうと認識致しています。

本学会の前身日本消化器癌発生研究会を発足された大原毅名誉理事長は本学会の意義を、消化器の癌を個々に論じるのではなく、同一消化器に発生する癌として位置づけ広い見地から縦覧的に論じる、いわば、比較消化器癌発生学とでもいえるような学問が重要だとして本会を設立したと述べられています。

第22回本学会でもその設立の動機を尊重し、その特徴を生かすべく企画致しました。今回のテーマを「一葉知秋」(淮南子説山訓)とし、一個の癌細胞から癌の発生、進展を知ることを目指したいと思います。

特別講演は東京大学宮園浩平教授による「がん進展・転移機序に基づく分子治療」を、教育講演には大阪大学森正樹教授に「がん幹細胞研究の現在と未来」を、エール大学Dr Alex E Urbanに「ゲノム研究の最新技術」、国立がん研究センターの柴田龍弘博士に「日本におけるがんゲノム研究の展望」をお願いしています。一般演題は臓器別ですが、企画演題は消化器癌として広い見地からテーマ毎に縦覧的に発表、討論して頂けるよう「発生の分子機序」「浸潤・転移」「病理診断・最近の進歩」「分子診断の臨床応用」「エビジェネティクスの臨床応用」「新しい分子

標的」「個別化治療」を主題にシンポジウム、ワークショップ、パネルディスカッションを組ませて頂きました。

佐賀は古くは我が国最大の弥生遺跡である吉野ヶ里遺跡、豊臣秀吉の文禄の役で大陸出兵の基地として名だたる戦国武將を集結させた名護屋城跡があり、明治維新期にはいち早く西洋文明を取り入れ、その軍事力で維新に貢献し、大隈重信、副島種臣、江藤新平、大木喬任など多くの偉人を輩出しました。医学においてもドイツ医学を導入した相良治安、天然痘に対する牛痘種痘法を実践し、東大病院のもととなるお玉が池種痘所を開設した伊東玄朴らを生み、西洋医学による医師免許発行など我が国の医療制度の原型を創っています。

佐賀は福岡から1時間、佐賀空港を利用すれば、会場のホテルニューオータニ佐賀まで車でわずか20分もかかりません。早朝には西の空にはバルーンが飛び交うシーズンでもあり、是非晩秋の肥前路をお楽しみ頂ければと思います。

ひとりでも多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。



第22回日本消化器癌発生学会
会長 宮崎 耕治 先生
(国立大学法人佐賀大学)

目次

第22回日本消化器癌発生学会総会準備報告	… 1
第21回日本消化器癌発生学会総会報告	… 2～3
平成22年度日本消化器癌発生学会理事会 議事録	… 3～5
役員・評議員名簿	… 6～7
編集後記	… 8

第21回 日本消化器癌発生学会総会報告

2010年11月18日(木)、19日(金)と2日間にわたり第21回日本消化器癌発生学会総会を日本有数のリゾート地である軽井沢プリンスホテルにて開催させていただきました。今回の学会のテーマは「消化器癌発生学・知の結集」ということで基礎の先生、臨床の先生方から質の高い演題を多数いただきました。シンポジウム11題(消化器癌発生学・知の結集：癌発生のメカニズム、浸潤転移の多様性)、パネルディスカッション25題(消化器癌の基礎と臨床：食道癌、胃癌、大腸癌、肝胆膵癌)、ワークショップ24題(癌の発生と進展、癌の個別化治療の現状、消化器癌の分子診断、消化器癌における分子標的薬)、ポスター40題(口腔・食道、癌の進展、肝・胆道・膵、大腸1、大腸2、胃1、胃2)その他に教育講演2題、ランチョンセミナー2題、イブニングセミナー、海外招待講演、会長企画ワークショップ、特別企画とし医学とは異なる分野から日本講演協会会長の講演師 神田紅先生をお招きし楽しいお話をさせていただきました。

学会第1日目、11月18日(木)は第一会場で行われた教育講演で幕を開けました。ご講演の演者は国立がん研究センター研究所 生物学部部長である横田 淳先生が「がんの臨床に役立つゲノム情報」と題して講演されました。横田先生の研究所では肺がんの高リスク群の同定、術後の予後不良群の同定、抗がん剤治療応答群の同定、新規治療標的分子の同定を目的として、肺癌患者が共有する遺伝子多型と肺癌細胞に蓄積しているゲノム異常の研究を行っており、今回は遺伝子研究を専門としていない一般の臨床家の医師にも噛み砕いて説明され非常にわかりやすい講演をいただき、また消化器癌の分析においても有意義なものでした。第2日目、11月19日(金)には教育講演2として群馬大学生体調節研究所の小島 至



開会式

研究所長から「TRPV2チャンネルによる細胞増殖・遊走の制御」と題した講演を頂き、癌の増殖に関する解明のために期待がもてるご講演でした。

海外招聘講演は米国国立がん研究所Dr Curtis C Harris教授により「Inflammation, Senescence and Cancer: Interweaving MicroRNA, Inflammatory Cytokines and P53 Networks」と題して癌に関し多岐にわたったご講演をいただきました。肺がんのバイオマーカーとしてのマイクロRNAと炎症性サイトカインという話の中では、肺がんのマイクロRNA異常の研究について説明されていました。マイクロRNAは長さ20-25塩基ほどの小さなRNAで、メッセンジャーRNAの制御を通じて、発生、分化など基本的な生物機能の維持にかかわっており、また、その異常はがんを含め、多くの疾患で観察されています。今回このmicroRNAと癌における最先端の研究について



学会終了後、スタッフとの記念写真

のお話しを拝聴することができました。

会長企画ワークショップでは大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学の森 正樹教授から「がんはmonoclonal? ~cancer stem cellの観点から~」、国立病院機構九州がんセンターの統括診療部長 藤 也寸志先生から「がんはどのくらい遺伝子の病気なのでしょう?」さらに徳島大学消化器・移植外科の島田光生教授から「感染症は発癌に直接関与しているか?」という題で癌研究の第一線で活躍の先生方からお話しをいただき、それぞれ別の立場から癌についてのきわめて高い見識を持っておられる3人と会長の私を含め参加者全員で意見を交換させていただきました、きわ

めて意義深いものとなりました。

今回、日本消化器癌発生学会をお世話させていただき、教室員一同全力で準備や運営にあたりましたが、至らない点など多々あったかは存じます。しかしながら参加者の皆様の熱心で真摯な議論が終始繰り広げられたことから、本学会を端緒として今後の消化器癌の研究の推進と治療発展が更に大きな力になるものとの期待が広がり、またそのことを確信致しました。

第21回 日本消化器癌発生学会総会
会長 桑野 博行

平成22年度日本消化器癌発生学会理事会議事録

日時：平成22年11月17日(水) 16:10~17:20

場所：軽井沢プリンスウエスト 白樺

出席者：井藤久雄、伊東文生、今井浩三、江角浩安
上西紀夫、小西文雄、桑野博行、島田光生
平川弘聖、前原喜彦、宮崎耕治、森 正樹
安井 弥、吉田和弘、立松正衛(敬称略)

オブザーバー：夏越祥次

事務局幹事：清水伸幸、調 憲、野村幸世
事務局(クバプロ)：松田國博、齋藤英司、鈴木友子
委任状：牛島俊和、岡 正朗、菅野健太郎、豊田 実
平田公一、小俣政男、門田守人(敬称略)

前原理事長が議長となり開会の挨拶を述べ、前回議事録の承認ののち、議事録署名人として平川弘聖理事、安井弥理事を指名し、議事が進められた。

第1号議案 庶務報告

調事務局幹事より、会員の動向が次のとおり報告された。
2009年11月から2010年10月までに新入会25名、退会27名の増減があり、2010年10月31日現在の会員数は787名である。

第2号議案 役員選考委員会報告

① 役員について

桑野博行理事より以下の報告があった。

- ・小俣政男監事、門田守人監事は定年にともない名誉会員として、兼松隆之評議員、塩崎 均評議員、徳永昭評議員、西野輔翼評議員、服部隆則評議員は定年にともない特別会員に推挙された。
- ・次期会長に宮崎耕治理事(佐賀大学附属病院長)が決定している。
- ・次次期会長に豊田実理事(札幌医科大学大学生化学)が推薦され、承認された。

・新たな監事として井藤久雄理事、平田公一理事が推薦され、承認された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

② 理事選考について

- ・桑野博行理事より以下の報告があった。
- ・平成21年度第3回理事会で、新理事に夏越祥次評議員が推薦されたことが報告された。
- ・平成21年度第3回理事会での「運用上、理事定員を若干上回ることも許容される。」との議決に基づき、落合淳志評議員、高後裕評議員、汐田剛史評議員、瀬戸泰之評議員、馬場秀夫評議員、源利成評議員、北川雄光評議員が理事として推薦され、承認された。
- 以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

③ 評議員選考について

- ・桑野博行委員長より以下の報告があった。
- ・新評議員として、杉原洋行氏、中島秀彰氏、宮崎達也氏、向所賢一氏、山下洋市氏、末廣剛敏氏、上野真一氏、江頭明典氏、栗田信浩氏、鈴木秀樹氏、松本伸行氏、長田成彦氏の12名が推薦された。
- また、これとは別に理事会宛に新評議員として長田真二氏、高橋孝夫氏、塚田一博氏が推薦された。
- 以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

第3号議案 倫理問題検討委員会報告

- ・吉田和弘委員長より以下の報告があった。
- ・本学会においてもCOI (Conflict of Interest : 利益相反)に関する指針の制定が必要であるとの認識の下、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会の先行例などを参考に

しながら、今後2年間の検討・試行期間を設け、「日本消化器癌発生学会利益相反の取り扱いに関する細則」を制定し、2年後から運用を開始することが確認された。

- ・学会発表者にはCOIの公表を義務付けることが提案され、承認された。
- ・COI指針の運用にあたっては、当面罰則規定などは設けない方針とすることが提案され、承認された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

第4号議案 編集・国際委員会報告

安井弥委員長より以下の報告があった。

① 第6回国際消化器癌会議について

- ・第6回会議は、2011年1月6日～8日に、Raymond N. DuBois (MDAnderson Cancer Center Vice President) がチェアマンとなってアメリカのHoustonで開催する予定であり、11月19日までだったポスター発表の登録締め切りが1ヶ月延長されることとなったので、日本からも多くの登録をお願いしたい。
- ・次回の2014年は前原理事長がチェアマンとなって日本で開催される予定である。

② 国際消化器癌学会 (ISGC) の運営について

- ・本学会の評議員は、自動的にISGCの会員に登録されることになっており、2010年度から評議員より1,000円を国際学会登録料として徴収している。

③ Oncologyについて

- ・Oncologyのインパクトファクターの低下や、査読システムのメリットがあまり感じられないことなどが委員より指摘され、また、年間契約費用が100万円と高額であることから、その費用を若手の研究奨励などに使うべきではないかとの意見があり、カルガー社との契約を解除することが提案され、承認された。それに伴い、カルガー社との契約内容を至急確認するよう事務局に指示があった。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

第5号議案 G-Project委員会報告

安井弥委員長より以下の報告があった。

① G-Project進捗状況報告について

- ・昨年度の総会時G-Project委員会以降、胃癌60症例・大腸癌40症例が追加され、広島大学分子病理学教室において合計胃癌220症例、大腸癌220症例のp53, VEGF-A, VEGF-Cの免疫組織学的染色が行われ、以下のような結果が得られた。
- ◆p53, VEGF-A, VEGF-C解析結果
- §全例での解析
- 胃癌、大腸癌において、再発とp53, VEGF-A, VEGF-

C発現(10%以上の腫瘍細胞が染色された症例を陽性と判定)との有意な相関は認められなかった。また、overall survivalとの相関も認められなかった。

§ Stage別での解析

Stage II胃癌において、VEGF-C発現例は再発が有意に少なかった。その他は胃癌・大腸癌いずれにも再発との関連性は認めなかった。

◆RegIV, GW112, claudin18, MMP-7解析結果

§全例での解析

胃癌、大腸癌において、再発との有意な相関は認められなかった。胃癌MMP-7発現は有意に予後不良であった。

§ Stage別での解析

1. Stage II胃癌において、MMP-7発現例は再発が有意に多かった。
2. Stage II大腸癌において、RegIV発現例は再発が有意に多かった。

② 今後の研究実施計画について

- ・未染色標本がまだ残っていることから、森正樹理事提案の候補因子などから新しい追加因子を選定し、解析を進めることが承認された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

第6号議案 財務委員会報告

島田光生委員長より以下の報告があった。

① 平成21年度決算報告について

- ・一般会員の会費の納入が多くあり、会費収入が増えている。
- ・「広告収入」について、ニュースレター広告の収入が減少したものの、バナー広告がそれを上回った。
- ・G-project関係の支出が予算を大きく下回り、支出全体の縮減につながった。
- ・それらの結果、繰越金の大幅な増加があった。
- ・以上について、小俣政男監事、立松正衛監事、門田守人監事から適正に執行されていることを確認しているとの監査報告書が提出されている。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

② 平成22年度予算について

- ・平成22年度の予算案について、平成21年度決算に基づいてほぼ同額の収入支出を見込んでおり、支出項目についても説明があった。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

③ 会費未納者への対策について

- ・各施設の未納者の納入を促すよう評議員に呼び掛ける

ため引き続き行われる評議員会で未納者リストを配布する。

第7号議案 在り方委員会報告

夏越祥次委員長より以下の報告があった。

- ・前原理事長が7月に全評議員に対して実施したアンケート調査の結果が報告され、日本消化器癌発生学会の運営の現状について、前原理事長より以下のような指摘があった。

◆弱み

§内容の重複する学会がある。

§研究者の減少。

§基礎研究を行う研究環境の悪化。

§専門医制度がない。

§臨床医が参加しづらい内容であるため、研究が終わると退会してしまう。

§企業からの寄付が難しい学会。

◆強み

§横断的な学会。

§コンパクトでも質の高い議論の場を提供してきた。

§心を同じくする他分野の研究者との討論、出会いの機会。

- ・これらをふまえ、これまでの質の高い学会は維持しつつ、会員数を増やし、学会活動を活性化するために以下の提案がなされた。

- ◆消化器外科学会の評議員のポイントになっていることを積極的にアピールする。

- ◆がんの基礎研究のスタート支援として40歳未満の若手研究者を対象に1件当たり20万円の助成金を3～5件程度授与し、研究成果を総会で発表させる。

- ◆発がん、がんの進展に示唆を与える症例報告発表を奨励し、臨床の場に戻っても研究心を失わないための場を提供する。

- ◆基礎、内科系の先生に理事として学会運営に参画し

ていただき、優秀な研究者を評議員として多く登用するとともに、横断的な学会である強みを生かすため、基礎、内科と外科が共同でより深い研究を行うための環境整備を行う。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

第8号議案 会則委員会報告

前原理事長より、今年度は会則委員会の開催がなかったことが報告された。

第9号議案 第20回学会総会(2009年)報告

第20回日本消化器癌発生学会総会は、平成21年11月26日から27日にかけて広島市、オリエンタルホテル広島で開催され、盛況であった旨、安井理事より報告された。

第10号議案 第21回学会総会(2010年)報告

第21回日本消化器癌発生学会総会は、平成22年11月18日から19日に長野県北佐久郡軽井沢町、軽井沢プリンスホテルで開催される予定であることが桑野理事より報告された。

第11号議案 第22回学会総会(2011年)準備報告

第22回日本消化器癌発生学会総会は、平成23年11月25日から26日に佐賀県佐賀市、ホテルニューオータニ佐賀で開催される予定であることが宮崎理事より報告された。

第12号議案 第23回学会総会(2012年)について

第23回日本消化器癌発生学会総会会長に豊田実理事が推薦されたことが報告され、平成24年に札幌医科大学の担当で開催されることが承認された。

以上

役員名簿

2011年9月1日現在

理事長 前原 喜彦

理事 (24名)

伊東 文生	今井 浩三	牛島 俊和
江角 浩安	岡 正朗	落合 淳志
上西 紀夫	桑野 博行	北川 雄光
高後 裕	小西 文雄	汐田 剛史
島田 光生	菅野健太郎	瀬戸 泰之
夏越 祥次	馬場 秀夫	平川 弘聖
前原 喜彦	源 利成	宮崎 耕治
森 正樹	安井 弥	吉田 和弘

会長 宮崎 耕治

次期会長 島田 光生

監事 (3名)

井藤 久雄	立松 正衛	平田 公一
-------	-------	-------

事務局幹事 (3名)

清水 伸幸	調 憲	野村 幸世
-------	-----	-------



名誉会員・特別会員名簿

名誉会員 (18名)

大原 毅 (名誉理事長)	内田 雄三
杉町 圭蔵 (名誉理事長)	金澤暁太郎
愛甲 孝	青木 照明
小川 道雄	小俣 政男
北島 政樹	佐治 重豊
曾和 融生	田原 榮一
寺野 彰	二川 俊二
門田 守人	三輪 晃一
恩田 昌彦	下山 孝
長與 健夫	磨伊 正義
物故者	長町 幸雄
	久保田哲朗

特別会員 (32名)

朝倉 均	磯野 可一	岩永 剛
岡島 邦雄	冲永 功太	笠原 正男
兼松 隆之	木村 健	小西 陽一
斉藤 利彦	塩崎 均	砂川 正勝
炭山 嘉伸	曾我 淳	高橋 俊雄
竜田 正晴	田中 紀章	徳永 昭
西野 輔翼	服部 隆則	比企 能樹
平山 廉三	廣田 映五	藤田 力也
船曳 孝彦	三木 一正	武藤徹一郎
武藤 泰敏	棟方 昭博	安富 正幸
山川 達郎	渡辺 敦光	
物故者	馬場 正三	

評議員名簿

2011年9月1日現在

(122名)

浅尾 高行	加藤 広行	清水 伸幸	永井 秀雄	松本 伸行
油谷 浩幸	上西 紀夫	下山 省二	中島 秀彰	真船 健一
池口 正英	川上 和之	城 卓志	長田 成彦	源 利成
伊藤喜久治	川口 実	調 憲	仲田 文造	峯 徹哉
井藤 久雄	川又 均	白水 和雄	中森 正二	三森 功士
伊東 文生	北川 雄光	末廣 剛敏	中山 淳	宮崎 耕治
今井 浩三	北台 靖彦	菅井 有	名川 弘一	宮崎 達也
上野 真一	工藤 進英	菅野健太郎	夏越 祥次	宮地 和人
牛島 俊和	國安 弘基	菅野健太郎	橋原 啓之	向所 賢一
内田 英二	久保 正二	鈴木 秀樹	西森 英史	森 正樹
宇都宮 徹	熊谷 一秀	瀬戸 泰之	西山 正彦	森田 勝
江頭 明典	倉本 秋	高橋 孝夫	野口 剛	八代 正和
江上 寛	栗田 信浩	高橋 豊	野村 幸世	安井 弥
江角 浩安	桑野 博行	高森 啓史	秦 史壮	八十島孝博
太田 哲生	高後 裕	田久保海誉	馬場 秀夫	山口 明夫
大平 雅一	後藤 満一	竹之下誠一	平川 弘聖	山口 佳之
岡 正朗	小西 文雄	立松 正衛	平田 公一	山下 洋市
緒方 裕	今野 弘之	田中 信治	藤井 茂彦	山本 博幸
小川 健治	澤田 鉄二	田淵 崇文	藤村 隆	横崎 宏
長田 真二	汐田 剛史	塚田 一博	藤盛 孝博	吉田 和弘
落合 淳志	篠村 恭久	塚本 徹哉	別府 透	吉松 和彦
掛地 吉弘	島田 信也	辻谷 俊一	前原 喜彦	渡邊 聡明
片岡 洋望	島田 光生	藤 也寸志	松川 正明	渡邊 雅之
加藤 俊二	嶋田 裕	富田 尚裕	松倉 則夫	
	嶋本 文雄	内藤 善哉	松原 長秀	

(50音順)

編集後記

東日本大震災に思う

まずは本年3月11日におこりました東日本大震災の尊い犠牲となられた方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、本学会の会員の皆様の中にも被害を受けられた方がおられるのではないかと案じております。

今回の東日本大震災はその被害の甚大さ、広範囲にわたること、原発事故を伴っていることだけではなく、東北のあまり産業のない過疎地におこったこと、故郷を離れ全国に散らばった被災者が多すぎて、いまだに地元と連絡が取れない方々が数多くおられることなど、復興の困難な様々な事情が存在するようです。私も仙台空港付近の名取市の閑上地区を訪問しましたが、その地域の被害は想像を絶するものでした。約6,000人の住民が生活していた地域ですが、約2,000名の命が津波で失われ、また約2,000名が全国に散らばっていていまだに連絡がとれないとのことでした。残った約2,000名の被災者も多くが家族を失い、自宅を失い、仕事を失ったつらい状況で仮設住宅での生活を余儀なくされていました。そのような状況にあっても被災者の方々が復興に向かって前向きに生きようとする姿に私は感銘を受けました。私たちがからすれば、そのような土地で再出発することは躊躇われるように思うのですが、家族、仕事、自宅を失った被災者の方々は迷うことなく、閑上地区で再び生活することを選択していました。

東日本大震災は日本人の心の在り方に大きな変化をもたらしたように思います。家族、故郷の文化、地域のコミュニティを大切に再出発しようとする被災者の皆さんの姿は、これからのわれわれの生き方に大きな示唆を与えてくれているのではないかと考えています。家族の絆や故郷の文化やコミュニティの大切さを教えてくれているようです。

一方、震災復興のために基礎研究の分野では研究費の削減などによる環境の悪化が加速されそうです。以前からの医学部学生、医師の基礎研究離れの傾向も相まって、たいへん厳しい状況がおこっていると思います。

しかし一方で、このような厳しい環境で研究を継続し、成果を上げてこそ本当の研究といえるのではないかと考えます。高い志を持った若い研究者とこの困難な状況を乗り切っていきたいとお考えの会員の皆様も多いのではないのでしょうか。前原理事長が研究奨励賞を創設されましたのも消化器癌発生学会が少しでもそのような若い研究者のお手伝いができればという思いからであったものと思います。このような困難な状況の中で鍛えられた結果やそれによって得られた喜びこそ、本当の喜びであると思います。

会員の皆様におかれましては今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

九州大学 消化器・総合外科
調 査

発行 日本消化器癌発生学会事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15

UEDAビル6F 株式会社クパプロ内

TEL : 03-3238-1689 FAX : 03-3238-1837

発行者 日本消化器癌発生学会

編集 総務委員会

印刷 福々印刷株式会社